

V a u l t 1 0 1 から来たよつば

ふおーきやつと

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

よつばは無敵だ。V・A・T・S・使えるしな。

目次

Vault 101 から来たよつば

Vault101から来たよつば

引っ越し日和だ。軽トラも快調。

かくも日本とは平和なところだと、よつばにも伝わるといいんだが。

「すげえ！ とーちゃん、ここきれいな家がいっぱいあるな！」

「そーだろー。お店もあるぞー」

「お店もか!? レジの金とつたらおこられるやつ!?!」

「……そうだ。怒られるやつだ。もうやるなよ？」

よつばの常識は日本の非常識だ。いや、異世界の常識なのかもしれない。瓶のキャップが通貨として流通している国など聞いたことがないし、俺の知るアメリカは核兵器を落としたことこそあれ落とされまくってやしない。ましてや荒野になどなっていない。

「すげえー!! 人がいっぱいいるー!」

中学校だ。下校時間の早さから察するに、明日から夏休みなのだろう。

「きようはゴートか!?!」

「テストだっけか、それ。まあ、学校だからあるっちゃあるだろうが……」

「よつばはとくだ。ゴート。ミニガンをようきゆうする」

ミニガン。小さな銃ということだろうか。どういうテストなのかはいまいちわからないが、確かによつばは得意そうだ。エアガンを持たせておけば殺虫剤要らずだし。

「あんまりのり出すと危ないぞー」

「手えふった! へいよーぐつつすっす!」

「とーちゃんよくわからんけど、それは別の異常識なんじゃないかな」「そっか。よつばまちがえた。ぽてとあぼがとふる……な?」

また訳のわからんことを。口振りからしてこっちの言葉じゃないのだろう。あっちがどんなだかは、聞けば聞くほどに謎が深まるが……とりあえず虫にしろ鼠にしろどどでかいらしいな。熱帯地方なのか。出会った時はロングゴートをひきずっていたが。

「あ、すかべんじゃーだ！ とりひきしていいか？」

「犬の散歩してる、ただのおじさんだ。よつばお金持ってないだろ」

「あのおとこ、びじねすうえあだ！ はなすのがうまくなるやつ」

「営業の人なら、まあ、そうかもな」

「あれはレイダー！ うっていいか!？」

「ダメだ。バンドマンだ。っていうか、おまえまた何か隠し持ってるな?」

「とーちゃんもぬーどるかくしてる」

「おまえ、カップ麺好きだよな……いや、そうじゃなくて」

「こっちのコーラはらつどなくていい。ひかればもつといいのになー」

「……おまえ、瓶入りコーラ大好きだよな」

よつばを見る。その左手には、ごくくメカニカルな籠手。何とかして外さないことには、来年、小学校に通わせられないかもしれない。ピップボーイ3000とかいう、それ。

見た目もヤバイが機能がとんでもない……手品師の帽子でもなしに、よつばはそこから色々なものを出したりしまったりするんだから。コーラなんてまだかわいもんだ。あの籠手からは色んなものが出てくる。大量の缶詰だとか、ヘンテコな宇宙服みたいなのとか、本物じゃないと思うがミサイルとか。

「ほーら、着いたぞー」

「ついた？ どこについた？」

「どこって、そりやおまえ」

「あ!! スーパーミュータントだ!!」

「ジャンボだろ……」

確かに竹田は図体が大きい。2メートル以上ある。だからってミュータント呼ばわりはひどいだろう。せいぜいジャンボだ。うん。そして竹田とアイコンタクト。大丈夫。今よつばは武器を手にしていない。

「ジャンボ……ひさしぶりだな?」

「おう……よつば」

車から降りたはいいが、両者見合って間合いの駆け引きだ。緊張感がある。竹田は何度も痛い目にあってるからな。それでも相手してくれるんだから、いいやつだ。

「よつばのなまえを、おぼえてるのか？」

「おまえは、小岩井よつば。元気にしたか？ 拳を構えるのやめろ」

「こいわいよつば……よつばこいわい……ジャンボはフォークスなのか？」

「俺はジャンボだ。よつばこそ、おぼえておけ……パラライ拳やめろ」

竹田も必死だ。まあ、気持ちはわかるが。

「ヤンダは？ まだ？」

「あーあいつ、任務が入ったからこねえって」

ため息が出た。竹田、おまえもか。

ヤンダこと安田に対しては期待と不安が入り混じっている。あいつもきつとよつばの相手ができる。竹田とはまた別の形でだ。しかしハイリスクハイリターンではあるな。能力はともかく性格的に。

「……まあ、ジャンボが2人分戦えばいいか」

「そんな事はない！ 俺は戦わない！」

「いざとなったら戦ってくれ……」

「よつばがたたかおう!!」

「やめてくれ」